

一カク



SOUL FIRE

去る6月23日から25日にかけて、カリフォルニア州パームスプリングにて、Soul Fire/信仰カンファレンスが開催されました。同催しは英語を話す教友を対象として企画され、当初は2021年の開催予定で準備されていましたが、コロナ禍の影響で延期となっていました。

参加した3ヶ国(アメリカ、カナダ、イギリス)205名の教友は、折しも伝道庁創立90周年記念を翌年に控え、また教祖140年祭に向かう三年千日のこの旬に、あらためて自身の信仰を見つめ直すとともに、同じ教えにつながるお互いの絆を深めました。

天理教アメリカ伝道庁

No.908



tenrikyo.com

JULY
2023



つらつらせんがく 熟々浅学



— ChatGPT (2) —

先月 23 日より 25 日まで、カリフォルニア州パームスプリングス市で「ソウルファイア天理教フェイスカンファレンス」を開催し、管外からの参加者を含めて大勢の方々が参加してくださいました。誠に有難いことでした。準備・運営を携わってくださった方々を始め、講演者、ファシリテーター、モデレーター、アシスタント、少年会員の世話をしてくださった方々など、大勢の協力の下、無事にできましたことは大きな喜びでした。この場をお借りして、関わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、6 月号の「熟々浅学」で ChatGPT と ChatGPT-4 (GPT-4) について書きましたが、そのことについてもう少し書き加え、思うところを書きたいと思います。

6 月号に「ChatGPT も GPT-4 も間違いなく使うことができれば何も問題ありませんが、残念ながら、これらを悪用する人もいます」と書きました。

先に、そのことについて書いておきたいと思います。

OpenAI の CEO の Sam H. Altman 氏がアメリカ上院司法委員会の公聴会で証言している内容を元にして、欧州の研究者は、ChatGPT を使用するに伴う 6 つのセキュリティ・リスクについて発表しています。

1. 情報収集

悪意を持って行動する人が ChatGPT を使って情報を収集し、それを悪用する恐れがあるとのこと。つまり、ChatGPT は膨大な情報を“武器”に使うとのこと。

2. 悪意あるテキストの生成

このことは 6 月号にも書きましたが、ChatGPT を使ってフィッシングメールの文章を生成してもらったり、人を貶める文章を作成してもらうことができます。つま

り、有害なテキスト作成のために利用できるということです。

3. 悪意あるコードの生成

優れたコーディング能力もあるので、その能力を使って悪意あるコードの生成も可能になります。つまり、パソコン用のウイルスなどの生成も可能になります。

4. 非倫理的なコンテンツの作成

不快で非倫理的なコンテンツの拡散を防ぐ手立てが講じられても、悪意を持ったユーザーは様々な手立てを使うので難しいようです。

5. 詐欺的サービス

ChatGPT は新しいアプリケーションやサービスなどのために Website の生成に役立たせることは可能ですが、それを悪用して、例えば、ニセの Website の生成も可能になります。

6. 個人データの公開

ChatGPT で個人情報が集められるので、それが誤って共有されるリスクが懸念されているとのことです。

誰もそうだろうと思うのですが、私としては、ChatGPT を悪用されるよりも、陽気ぐらし世界実現のために使いたいと思うのです。

6 月号にも書きましたが、私は ChatGPT を使って、英文法を確認してもらったり日本語文章を英訳してもらったりしています。

英文法の確認をしてもらおうと、より良い英文章を提示してくれるので、その点では非常に有難いと思っています。しかし、ChatGPT が推奨する文章を必ず採用するということではありません。私の言いたい内容と違うニュアンスの英文が示されることがありますので、生成された文章に手を入れて、再度 ChatGPT で英文法を確認することをしてしています。場合によ

ては、その過程を何回か繰り返すこともあります。

日本語文を英訳してもらう時は、天理教用語を使用しない場合であれば、素晴らしい文章を作ってくれます。しかし、残念ながら、天理教用語を使っただけの文章の英訳では、教語の英訳が正確にできないこともあり、それは人名でも生じることがあります。

以前、天理時報の文章をコピーペーストして、ChatGPTで英訳を試みました。十数秒で一つのコラムの文章を英訳してくれました。

ChatGPTでは一度に翻訳してくれる文字数が少ないので、多くの文字数をコピーペーストして英訳しようとすると、うまくできませんでした。しかし、GPT-4であれば2万字まで一度にコピーペーストしても英訳は大丈夫なようです。

さて、そのコラムの文章には「山中忠七」先生の逸話で使用されていました。ChatGPTでコラムの全文を英訳してもらった時、「忠七」が「Tadanana」と出てきました。そこで、ChatGPTに、『「忠七」を「Chushichi」と訳して、再度全文を英訳してください』と指示しましたところ、ちゃんと「Chushichi」と訳して、全訳を出してくれました。

また、「親神様」は「Divine Parent」と、「教祖」は「founder」と訳されていましたので、『「親神様」は「God the Parent」と訳してください』と指示し、そして『「教祖」は「Oyasama」と訳して、再度全文を英訳してください』と指示しましたら、それぞれその通りに訳して全文の英訳が出てきました。

「稿本天理教教祖伝逸話篇」は「Kohpon Tenrikyo Koso Ittowahen」とローマ字読みでもない滑稽な訳が出てきましたので、『「稿本天理教教祖伝逸話篇」は「Anecdotes of Oyasama, the Foundress of Tenrikyo」と訳して、再度全文を英訳してください』と指示しましたら、正確な訳を表示してくれました。

このように間違った英訳が出てくるのは、天理教用語の英語訳のデータがAIにはまだま

だ蓄積されていないためだろうと思うのです。

そこで私は思っているのは、多くの人にChatGPTを使ってもらって、天理教の教えの文章を英訳してもらえれば、「どうなるか」ということです。

ChatGPTは過去データの蓄積を基に、いろいろなことが可能になります。過去のデータの蓄積があるからこそそのChatGPTだと思っただけです。

もし、天理教用語のデータが蓄積されて行けば、日本語で書かれている天理教の教えの文章が正確に英訳されるようになるのではないかと思っているのです。

もちろん、実際に実行してみないとどうなるのか分かりませんが、もしそれが可能であれば、これほど有難いことはないと思うのです。例えば、「みちのとも」に掲載されている神殿講話をChatGPTが瞬時に正確な英訳をしてくれれば、それを英文しか読めない信者に「タイムリー」に読んでもらうことが可能になります。そうなれば、「タイムリー」に教理的理解を深めてもらうことも可能になります。

私一人で英訳したり修正したりするだけでは、時間的にも量的にも限られていますので、一人でも多くの方が、日本語で書かれてある天理教の文章をChatGPTに英訳させ、そして、おかしな英訳を修正してから、更にそれをChatGPTに読み込ませて行けば、将来的に、ChatGPTを使って、瞬時に、天理教の文章を正確に英訳できる世界がやって来るのではないかと期待しているのです。

前述のように悪用する人がいますので、今後、ChatGPTがどのように扱われて行くのか分かりませんが、人々が正しいChatGPTの使い方を行えば、世界に天理教の教えを広めるために、将来的に有為な布教手段の一つになるのではないかと思っています。

深谷 洋

立教186年6月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところから、世界一れつの人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと、この世人間をお造りくだされ、旬刻限の到来と共に教祖をやしろに表に現れて、たすけ一条の道をお付けくだされました。爾来、御教えは世界に伸び広がり、この北米の地にも、教祖のひながたを頼りに、世界たすけに勤しむ者をお与えただいておりますことは、誠に勿体なく有難い限りでございます。私共は、日々の御高恩に感謝し、たすけの御用に努めさせていただいておりますが、その中でも、今日の吉日は、当伝道庁の六月の御祭りを執り行う日柄でございますので、只今より、ちばの理を頂戴し、おつとめ奉仕者一同、心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御守護に御礼申し上げ、尚も変わらぬ親心にお縋りたいと、勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいますして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月二十三日より二十五日まで、天理教フェイスカンファレンス、ソウルファイアを開催しますが、このカンファレンスが世界の道の伸展の礎の一つになりますようお願い申し上げます。

私共は、世界にお見せくださるさまざまな争いの早期終結を願い、親神様の思召にお応えできる世界実現に向けて邁進する覚悟でございます。また、一年後の当伝道庁創立九十周年記念祭に向けて、管内が一手一つとなって心の成人に励みたいと存じます。何卒、親神様には、私共の誠真実の心をお受け取りくださいますして、世界の人々が互いにたすけ合って暮らせる陽気ぐらしの世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

6 月月次祭神殿講話

ニューヨークセンター所長

福井 陽一

只今は、庁長先生ご夫妻を芯に、皆様方とともに、アメリカ伝道庁の6月の月次祭をにぎやかに陽気につとめさせていただき、誠にありがたいことと存じます。講話のご命をいただきましたので、しばらくお付き合いのほど、よろしく願い申し上げます。

私は、現在ニューヨークで布教所長と伝道庁管轄の天理教ニューヨークセンター所長の御用をさせていただいております。昨年5月にセンター所長の辞令をいただき丁度一年になります。最初センター所長のお話をいただいた時、そんな重責を果たして私に担えるのかなと思ったのですが、丁度新型コロナワクチンの後遺症で腎臓が腫れて体調悪く不安な日々が続いていましたので、もしかしたら、神様の御用をつとめる事で、ご守護いただけるかもと思い、決心させていただきました。布教所は子供達にまかせて、文化協会の校長は他の方にお任せして、夫婦でセンターに住込むことになりました。そう決めましたら腎臓の方も急に元気になりました、おかげさまでこうして毎日健康に過ごさせていただいております。私のような者でも皆様と共に世界たすけの御用につとめさせていただけることは、誠にありがたい事と、心から幸せを感じております。

今日は皆様と一緒におつとめを勤め、世界平和への祈りも込めさせていただきましたので、家に帰られた時に注意深く身の回りを観察してみてください。きっと何か嬉しいことを見せていただけたらと思います。神様の御用をつとめさせていただくと、必ず何か変化があり、必ず嬉しいことがあると思います。そういうご褒美を見せていただくと、ますます御用を担うことが嬉しくなってきます。そうすると、また何か嬉しいことを見せていただける。また御用を担いたくなる。喜びの連鎖



反応が起こってきます。実際にそんなにしょっちゅう嬉しいことがあるわけではありませんが、その時にはわからなくても、あとで「何かすごいいいことあったなあ」と。で、よく考えたら「これ、あの時にこのことをさせてもらったおかげやなあ」と思うことがあります。皆さんもきっとあると思います。

最近よく過去の年祭活動のことを思い出すのですが、10年前の年祭活動の時は、文化協会の近くのユニオンスクエアという駅前の公園でスタッフと一緒に毎日のようにパンフレットを配り十二下りのお手振りをしていました。私は恥ずかしいからいつも笛だけを吹いていましたが。その当時は、文化協会が経済的に独立採算になることが、長年の目標だったのですが、教祖130年祭を迎えた2016年の年に実現することができたのですね。それで、その当時は分からなかったのですが、10年経って今振り返ると、きっとあの毎日のにをいがけのお陰だったに違いないと思い、今頃ああ良かったな、ありがたかったなと喜ばせていただいております。

しかし、喜びも束の間で、このパンデミックで文化協会は再び赤字に陥り、なんとかサバイバルして、昨年ようやく黒字になりました。そんな時に今月ソウルファイヤーがありドネーションが必要とのことでしたので、思

い切って収益すべてソウルファイヤーにお供えしてしまったのです。パンデミックの3年間あの手この手と苦勞してやっとできたお金だったのですが…そうしたらですね、あとで分かったのですが、NYの不景気な経済にも関わらず、不思議と文化協会の日本語クラスの生徒数が過去最高になったのですね。嬉しかったですね。神様働いてくださっているなって感激でした。思い切って神様の御用をさせていただくと嬉しい事が起こってきます。そして、神様のお働きをいただく時には、自分の手をまず空っぽにする事も大切なのだなと実感いたしました。

教会に足を運ぶことでも、嬉しいことを見せていただけます。ニューヨークセンターによく参拝に来られる方に、フライトアテンダントの方がおられます。仕事のスパンがだいたい3日間から1週間なのですが、その期間、色々なところへ飛んでいきます。その仕事が始まる前と仕事が終わってニューヨークに戻ってきた時、いつも参拝に来られています。先日着陸する際に、タイヤがなかなか出なくて、空港の上をぐるぐる何回も旋回していたそうですが、最後には完全ではない状態でしたが何とか着陸できたそうです。これも、毎回仕事の前と後に参拝に通っていたおかげで、神様に守ってもらったのだと喜ばせていただきました。

現在年祭活動の一年目が始まっていますが、この3年間は特に教祖の後押しをいただける特別な句とされています。力を入れれば入るほど、大きな喜びも見せていただけていると思います。

ニューヨークセンターでは、三年千日の年祭活動の目標として、より一層「行きたくなくなるセンター」になれるように内容を充実しているかと話しています。そして、具体的には管内の教会や布教所、講社に初めて参拝して下さる人を500名ご守護いただくこと。現在センターの月次祭には毎月100名、多くて120名の参拝者が来られています。3年後には150名の参拝者に来ていただけるように目指すこと。コミュニティーへのひのきしん

として、長い間続けてきた献血活動を再開し、現在、深刻な問題となっている血液不足に対応して、地域コミュニティーへ貢献させていただこうと思っております。そのように心定めをさせていただいた途端、先月の月次祭には10名の方が初めてご参拝くださったので、とても嬉しく勇ませていただきました。

個人的には、1日1回はおさづけを取り次がせていただこうと定めたのですが、なかなか毎日できない時もあります。しかし、そう決めた途端におたすけを頼まれて行かせていただくということがありました。自分で呼吸が出来ない末期状態の方だったのですが、おさづけを取り次がせていただき、最後は自分で呼吸をしながら家族に囲まれて出直して行かれました。自呼吸できたのも、きっとおさづけのおかげだったに違いないと家族の方も喜んでくださいました。おさづけのお働きの素晴らしさと、心を定める事の大切さを痛感させていただきました。

話は変わりますが、「ひのきしん」について少しお話ししたいと思います。

「ひのきしん」という言葉は、教祖が教えてくださったお言葉で日本語の中にはない天理教独自の言葉です。教祖は世界中の人々が幸せに暮らしていけるように幸せになれる秘訣を教えてくださいました。その一つが「ひのきしん」です。「ひのきしん」を実践すると必ず幸せに導いてくださると思います。

最初に「ひのきしん」という言葉が出てくるのは、教祖が慶應2年(1866年)ごろから教えられた「みかぐらうた」の一節とされています。

やむほどつらいことハない

わしもこれからひのきしん 三下り目 八ッ

当時信仰を始めた人たちが最初に教祖からひのきしんを教わり実践された方々だと思います。その中には飯降伊蔵先生もおられました。人々は無い命をたすけていただいた教祖に何とかお喜びいただきご恩返しをしたいという思いでいっぱいだったと思います。その報恩の思いが集まり「つとめ場所」の普請が

人々のひのきしんによって建てられました。教祖はこのつとめ場所のみかぐらうたを教えお手振りを教えてくださいました。

ひのきしんの「ひの」は日々の、毎日の、という意味で、「きしん」というのは、感謝の気持ちを神様に捧げる行いのことです。ですから、毎日日々どんな些細なことでもいいので、今日も命をいただき、生きることができる喜びや感謝の気持ちを込めて、親神様にお礼をさせていただく。世のため、人のために喜んでいただける何かをさせていただく行為がひのきしんと言われるものです。

『天理教教典』には、ひのきしんについて次のように説明されています。

日々常々、何事につけ、親神の恵を切に身を感じる時、感謝の喜びは、自らその態度や行為にあらわれる。これを、ひのきしんと教ええられる。(76頁)

ひのきしんは、信仰に燃える喜びの現れで、その姿は、千種万態である。必ずしも、土持だけに限らない。欲を忘れて、信仰のままに、喜び勇んで事に当るならば、それは悉くひのきしんである。(78頁)と教えられています。

「欲を忘れてひのきしん」と教えていただきますが、ひのきしんをしていると欲を忘れてきます。そして、心が澄んできます。ひのきしんは親神様が大変喜んでくださいますので、親神様が心の掃除をしてくださりと、心がきれいになってきます。心が澄んでくると、親神様の自由自在のご守護をたくさんいただくことができるのです。従いまして、病気で苦しい時や事情で行き詰まっている時などは、特にひのきしんが大切になってきます。なかなか思うようにならない。しかしながら、今日も生きている。命をいただいている。それをまず喜ばせていただき、感謝の気持ちで何か実践する。そこにご守護いただける秘訣があります。

道に落ちているゴミを拾うだけでもいいと思います。「この世の中は、親神様の体や」と教えていただきますので、ゴミを拾うことは、親神様の体をきれいにすることにも繋がり、その

結果自分の心もきれいにさせていただくこともでき、徳も積ませていただくこともできます。

ある時、何事もあまりうまくいかない事が続き、徳が擦り切れているなど感じた時期がありました。そんな中、せめてゴミ拾いからでもと思い毎朝近所を回らせていただいております。続けているうちに気がつけば、身体も精神も健康になると同時に事情もおさまり、さらには大きな喜びをいただいている自分に気がつきました。本当にひのきしんというのはありがたいなあと実感しております。

教祖が教えてくださった「ひのきしん」、これは世界の宝だと思います。

1000年後には世界中の人々がお道を信仰し、ひのきしんに励みながら幸せを掴んでいると思います。そんな姿を楽しみに夢見ながら、まずは、私たちから、毎日続けて小さなひのきしんをさせていただきたいと思います。

「諭達」第4号では、特に「教祖のひながたを辿る」ということについて強調されていると思います。私は今61歳ですが、教祖は61歳の頃どのようにお通りになられていたのかを知りたくて、教祖伝を紐解いてみました。少し引用させていただきます。



「教祖の五十六歳から凡そ十年の間は、まことに容易ならぬみちすがらであった。働き盛りの秀司も、娘盛りのこかんも、一日として、これはという日もない中を、ひたすら、教祖の思召のまゝに素直に通った。」「六十の坂を超えられた教祖は、更に酷しさを加える難儀不自由の中を、おたすけの暇々には、仕立物や糸紡ぎをして、徹夜なさる事も度々あった。月の明るい夜は「お月様が、こんなに明るくお照らし下されている。」と月の光を頼りに、親子三人で糸を紡がれた。」と書かれてあります。「水を飲めば水の味がする。親神様が結構にお與えくたされてある」と諭されたのもこの頃です。「このように生計が苦しい時でも、その中から、食をさき着物を脱いで、困っている者に与えられるのが常であった。漸くの思いで手に入れた五合の米を、偶々門口に立って食を乞う者に、何の惜し気もなく与えられたのも、寒さにふるえて居るものを見て、身につけて居る絆纏を脱いで与えられたのも、この頃である。」(教祖伝 40 頁)

教祖は、まだまだ一番どん底の生活を通られておられました。そう思うと今の私の恵まれた生活は全くもったいないことだと痛感いたします。この頃の教祖には、もう施されるものもなく、困っている人々と自ら同じ立場に立っておられたと思います。そして、この頃の大和の人々には経済的に貧しい人もいたでしょうが、精神的な心貧しい人々もたくさんおられて、教祖のお慈悲と親心を受けて助かった方もたくさんおられたに違いないと思います。

年祭活動の大切な点は、ひながたを辿りながら細道を通ることと言われます。細道を通るといのは、まずは今自分が置かれている場所で、精いっぱいに通らせてもらうということ。そして、心定めして通り、信仰心を強く深くさせてもらうことが大切なのだと思います。「楽々の道に道はない」とも言われますので、教祖のひながたを胸に、お互いしっかりと努力させていきたいと思えます。

教祖は、親神様が人間を創られた時に、最初の母親の役目をされた魂のお方です。元の話のお話では、私たちはみんな一緒におや

まの胎内に3回も宿しこまれて、一緒に育てていただきました。だからこそ、私たちは兄弟でありますし、おやさまが世界中の人々の元の母になるのです。ですので、おやさまの前には、この世のどんな人間もかわいいわが子であり、おやさまは全ての人間の母親として子どもの成人を願い、いつも絶対的な愛情を注いでくださっているのです。

現在、世界は大変危険な方向に向かっていていると思います。

私たちは、民族や人種や国境などの違いに関係なく広がるコロナ禍を通して、世界中の人間は兄弟姉妹であることを再認識しました。そして、助け合うことの大切さも再認識しました。しかし、現実には助け合うどころか、コロナ禍が収束もしないうちに、大きな紛争が勃発しています。「欲にきりない泥水や」と言われるように自分たちだけの利益を追求して混沌とした泥海のような状態にあります。私たちの目指すところからますます遠ざかっているように思われます。

こんな世界に向けて私たちに何ができるのかと途方に暮れてしまいます。しかし、まず私たちから心の埃を払い、欲を離れて心を澄みきることが大切なことと思います。そして、アメリカに縁あって寄せられた私たちお道の者たちは、教祖がたったお一人から始められたこの道、世界が真に治る陽気ぐらしの精神、助け合いの生き方を実践して、「人間がたすけあう姿を見て共に楽しみたい」という、親神様の思いをアメリカの地にそして、世界へ陽気ぐらしの姿を映していきましょう。

ご清聴ありがとうございました。





伝道庁連絡



6 月月次祭

祭主 庁長
 扈者 岡崎マーロン 福井陽一
 賛者 岩橋元博 ヤシキ・ゲリー
 指図方 雪本利清
 神殿講話 福井陽一（日）

教会事情

ノウスアメリカ教会
 任命願、臨時祭典願、
 恒例祭日臨時変更願、教会所属変更願

おはこび：2023 年 7 月 26 日

奉告祭：2023 年 10 月 1 日

ヘリテッチ教会

遷座祭日願、神殿屋根葺替願、臨時祭典願

おはこび：2023 年 7 月 26 日

鎮座祭：2023 年 9 月 8 日

奉告祭：2023 年 9 月 9 日

教人資格講習会・教会長資格検定講習会

例年 8 月末から予定されている教人資格講習会
 英語クラス、9 月末からの教会長資格検定講習会
 英語クラスの開催については、現状受講希望者が
 ないため、開催はない見込みとなっておりますが、
 各講習会の受講希望者がおられましたら、早々に
 伝道庁までご連絡ください。

天理教語学院 (TLI) 日本語科入学願書 及び志願者のための一れつ会扶育願書

2024 ~ 2025 年の「天理教語学院日本語科入学願書」と「日本語科志願者のための一れつ会扶育願書」が伝道庁に届いています。出願期間が下記の様になっていますので、入学を希望される方は 8 月末までに伝道庁までご連絡下さい。

日本語科入学願書

出願期間：2023 年 8 月 15 日 ~ 9 月 20 日
 （日曜、祝祭日除く）

願書費用：一部 5 ドル

一れつ会扶育願書

出願期間：2023 年 8 月 15 日 ~ 9 月 20 日

願書費用：無料（日本語科志願者のみ）

また同校のおやさとふせこみ科の出願要項は以下
 のようになっております。願書を取り寄せる必

要がありますので、入学を希望される方がいる場合はお早めに伝道庁までご連絡ください。

出願期間：2023 年 10 月 1 日 ~ 10 月 31 日

（日曜日、祝祭日、10 月 26 日午前は除く）

出願資格：以下の条件を全て満たす者

- 1) 本国内で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
- 2) 海外の教会長、布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時によろぶくの者。
- 3) 本校日本語科卒業（見込み）の者、または「日本語能力検定」N2（または 2 級）以上に合格した者、卒業後、将来自国においてお道の用務に従事する予定の者。

人事

伝道庁書記、またノウスアメリカ教会代務者を長年勤めておりました上村雄郎・本部准員は、7 月 19 日に日本に帰国予定です。

各会連絡

教化育成委員会

- ・おやさと練成会が、7 月 16 ~ 22 日の期間でおおげにて開催されます。おさづけの理拝載は 7 月 23 日の予定で、アメリカからは 13 名の受講生が拝載予定。
- ・対面式でのおやさと練成会事前研修は、12 月 28 日から 30 日の日程で開催予定です。小委員会では、対象者に連絡をとっており、今後内容の準備を進めて行きます。

広報委員会

- ・90 周年に向けた活動のアイデアを管内の方が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しております。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：川上 (kamishyuo@hotmail.com)
 林 (takhayashi@gmail.com)

翻訳委員会

SDM 翻訳会議がハワイで行われ、一下り目～三下り目までの翻訳を終えました。今回翻訳したものを9月下旬にSDM ジェネラルグループとの会議で仕上げたいと考えています。

婦人会

- ・アメリカ婦人会は、2024年に創立70周年を迎えます。諸先輩方がお通り下さった尊い歩みに感謝し、更なる歩みを親神様、教祖にお誓い申し上げるべく2023年、1年をかけて「アメリカ婦人会創立70周年記念おちばがえり」を実施致します。おちばへお帰りになられた方は、是非お名前をお知らせください。
- ・アメリカ婦人会創立七十周年記念活動：記念写真集発行。「喜びの集い」を計画中。



少年会

- ・少年会おつとめまなび総会：対面で8月19日(土)に開催します。対面で参加できない少年会員、ご父兄の皆様もオンラインで少年会長様のご告辞をご拝聴ください。
- ・縦の伝道講習会：少年会本部より久保一元委員をお迎えし、8月20日(日)に開催します。
- ・おつとめ着や子供おちばがえりのTシャツ等、寄付していただける物があればお知らせください。(moto1884@icloud.com)
- ・「みちのこ日めぐり」の英語版を各教会、布教所、出張所に一部ずつお送りしています。足りない場

合はお知らせください。各家庭一部まで。

- ・日々に教えの読み聞かせを「Let's Learn the Teachings!」(\$3.50)「Let's take a moment」(\$4.00)郵送をご希望の方は団長までご連絡ください。
- ・少年会ハッピーの購入をご希望の方はご連絡ください。サイズによって\$20- \$30でお分けしています。郵送可。
- ・サンデースクールを再開しました！スタッフとしてお手伝いいただける方がおられましたらご連絡ください。(moto1884@gmail.com)

青年会

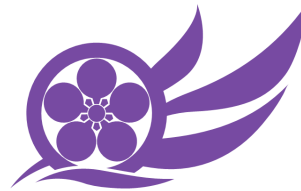
- ・アメリカ青年会総会は7月15日(土)に開催されました。
- ・第97回天理教青年会総会は11月25日(土)午前11時より教会本部で開催されます。総会后に、ステージや屋台などがある催し物が開催されます。
- ・インターナショナルひのきしん隊は、2024年7月18日～24日に開催予定。
- ・教祖140年祭の年の2026年7月18日～24日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

NYセンター

- ・7/11 新貝貴太郎(しんがいがい・こうたろう)(東大教会)文化協会日本語講師として着任。
- ・7/21-23 青年会巡回(シカゴ方面)
- ・7/21-27 日本語教師養成講座開催(文化協会にて)

伝道庁宿泊

伝道庁大祭・月次祭の第3日曜日の週末に伝道庁での宿泊を希望される方は、宿泊月の第2日曜日までに食事・宿泊の申し込みを必ず書記までご連絡ください。よろしくお願ひ致します。



雅楽コース

天理教雅楽コースアンサンブルは、アメリカ伝道庁創立 90 周年に向けて遠大な計画を立てています。主任講師の弓削進先生は、90 周年記念パーティーで「抜頭」という古典曲を生徒たちが演奏出来るように準備を進めています。

雅楽は古代日本の皇室の音楽と舞踊であり、その深いルーツは韓国、中国、インドにまで遡ります。また、天理教の教会の月次祭でも、祭文奏上を伴う祭儀の音楽として使用されています。

天理教雅楽コースアンサンブルは 2018 年 1 月から雅楽の定期練習を行っています。練習は通常、伝道庁でのお泊り会として行われ、学生たちは映画鑑賞会、スマッシュブラザーズビデオゲームバトル、バレーボール、ボードゲームフェスト、キャンプゲームなどの楽しいイベントの夜を楽しむこともできます。雅楽コースアンサンブルはこれまでに 12 回のお泊り練習を開催しており、最新の練習は 2023 年 6 月 15 日から 16 日にかけて開催されました。コロナ禍で直接接触が困難になった中、弓削先生は Zoom 練習も主導し、パンデミックの真っ只中でのグループの音楽スキル向上に役立ちました。

片山幹太郎、川田一行、ケイト・メニュー、上杉啓司、宇佐美亮介、山本亜由美、山下忠宏、ジャレッド・弓削など、さまざまなインストラクターが協力してくれました。

これまで、グループは越天楽や陪臚など、最も一般的な雅楽の曲を練習してきました。一般参加者は 15 ～ 18 人程度で、笙、龍笛、箏、更に打楽器を演奏するグループに分かれます。子供たちが雅楽を学ぶ手助けのために、おそらく世界で初めて、各楽器のローマ字楽譜が作成されました。「抜頭」はグループにとって新たな挑戦となりますが、彼らはそのテンポの速さと独特のメロディーをすでに気に入っているようです。また、ニューヨークセンターは、この作品を演奏するための衣装をグループに貸与することに快く同意してくれました。創立 90 周年まであと 1 年という大変な目標ですが、この目標を達成するよう努力することで雅楽の技術向上を図っていきたいと考えています。



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

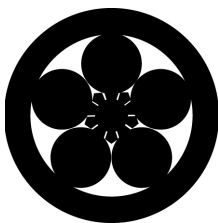
NON-PROFIT ORG.

U.S. POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO. 30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”

Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life